

境界地域における歴史と記憶

—アルペン・アドリア地域を中心に

戦争と国境再編、
国家に対する〈無関心〉、
移動なきトランスナショナリティ、
記憶のポリティクス……境界地域の経験から何を学ぶか

2018年2月17日（土）

東京外国語大学海外事情研究所

（研究講義棟427）

第I部 映画上映と解説 11:00-13:00

映画上映：『ピラン／ピラーノ』

（ゴラン・ヴォイノヴィッチ監督、スロヴェニア、2010年）〔日本語字幕〕

第一次大戦後にハプスブルク帝国からイタリアに割譲された街、ピラン（イタリア語名ピラーノ）。第二次大戦末期、ユーゴスラヴィアのパルチザンが奪取し、数十年にわたるイタリアの支配は終わりを告げる。50年後、故郷ピラン／ピラーノを訪ねたイタリア人に蘇る戦火の記憶。

解説：山崎信一（東京外国語大学／現代バルカン史）

- ❖ 予約不要・入場無料
- ❖ 使用言語：英語、イタリア語、日本語（通訳なし）
- ❖ 問い合わせ：小田原（rodawara@tufs.ac.jp）

第II部 報告とパネル・ディスカッション 14:00-17:00

報告：ボルート・クラビヤン Borut Klabjan (European University Institute／近現代アドリア海地域史)

「東西間の記憶のボーダーランド：20世紀のアドリア海北部地域」

西と東、ラテン/ゲルマンとスラヴ、ヨーロッパとオリエント、ファシズムと反ファシズム、民主主義と共産主義など、地政学的断層に位置づけられてきたアドリア海北部地域。その住民たちの、トランスナショナルな「記憶のランドスケープ」。

パネル・ディスカッション：

ボルート・クラビヤン

鈴木鉄忠（中央大学／日本とイタリアにおける境界地域の社会学）

逆井聡人（東京外国語大学／アジアにおける比較文学）

鈴木珠美（東京外国語大学／オーストリア・イタリア国境地域の近現代史）

司会：小田原琳（東京外国語大学／イタリア近現代史）